

令和6年度 教育委員会点検評価委員会 議事録

1 開会及び閉会の日時

令和7年9月12日（金） 午前10時00分～午後0時00分

2 場所

南砺市役所 別館3階大ホール

3 点検評価委員

・委 員 長 宇野 雪江	・委 員 齊藤 晴之
・委 員 武部 かずえ	・委 員 大西 正起

4 説明出席者

・教 育 長 松本 謙一	・教育委員会教育部長 氏家 智伸
・教育部次長教育総務課長 上野 容男	・生涯学習スポーツ課長補佐 高堂 清美
・文化・世界遺産課長 野村 信晴	・こども課長 山田 千佳子
・中央図書館長補佐 松井 環	・教育総務課主幹 佐藤 聖子
・教育総務課主事 永井 麻由子	

5 傍聴者

なし

6 会議の要旨

午前10時00分、教育部長が開会を宣し、議事に入る。

1 開会挨拶（松本教育長）

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

この点検評価委員会は5年毎に改定する教育振興基本計画に基づいて行っています。今回の点検は5年目の最後の年となり、令和7年度からは新しい評価基準を用いて行うことになります。評価を見ていると本当にこの基準でよいのかと思う項目もありますが、今年いただいたご意見をもとに、来年からの評価に活かしていきたいと思います。委員の皆さんには各分野から学識経験者としてお越し頂いておりますが、専門分野はもちろん、専門分野以外でも一市民として気になる点があればご意見をいただき、今後に生かしていきたいと思いますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

2 出席者紹介

3 委員長選出

3 報告書の説明と質疑・意見

令和6年度事業の概要（計画の体系別）

基本目標「1 豊かな人間性を育む学校教育の充実」

基本施策（1）自他を尊重し、思いやりと助け合う心の育成

- 点検評価委員 「自分には良いところがあると回答した児童生徒の割合」の達成度が90%を超えと高く、ふるさと教育の推進の項目も総合的に判断しBとしているのだと思うが、限りなくAに近い結果だと感じる。「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」児童生徒の割合が伸びているように思う。
- 点検評価委員 ふるさと教育の「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた児童生徒の割合」という項目はなぜなくなつたのか。
- 事務局 国の学力学習状況調査に地域に関する項目があるが、その調査項目の中から削除されてしまったためである。
- 点検評価委員 地域行事は重要なもので、児童生徒が行事に参加することで地域愛が育まれるものであると考える。達成度が上がるところで地域に住みたいという意識につながったという評価ができるのではないか。中学生の数値が低いことに何か理由はあるのか。
- 事務局 部活動や習い事など、最近の子どもたちは忙しいと言われており、地域行事から離れてしまうのではないか、地域行事より魅力に感じることがあるのではないかと考えている。
- 点検評価委員 忙しいというのもあるが、地域行事の魅力をうまく児童生徒の理解に繋げられていないと感じた。
- 点検評価委員 「不登校の長期化」について、教育支援センターは不登校の児童生徒の復帰先を学校だけに限定していないのであれば、21ページの③「学校への復帰を支援するために」という書きぶりを修正する必要があるのではないか。
- 事務局 委員のおっしゃる通りであり、修正する。
- 点検評価委員 ②の子どもいじめ防止対策事業について低学年のいじめが全国的に増えているが、低学年の児童はいじめを理解できていなかつたり、小さい子どもほど発達のばらつきが出やすかつたりするので、そのようなこともいじめにつながりかねないと保護者に伝え、相談につながるとよいと感じた。
スクールカウンセラーへの相談件数が減っているという話だったが、南砺市は保護者や子どもに対する支援が手厚いと感じており、様々なところに相談の窓口が設けられているため学校での相談が減っているのではないかと思った。

基本施策（2）確かな学力の育成

- 点検評価委員 「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていると回答した児童生徒の割合」の達成度が高く、学校が頑張っているのだなと感じる。どの指標も大変伸びていてこれもB評価だが限りなくAに近い内容だと感じた。
- 点検評価委員 (1)(2)とも5年間の取り組みの中でほぼほぼ数値が伸びており素晴らしいと思う。この目標値とは何をもとに決めているのか。
- 事務局 全国平均などではなく、曖昧であるが、計画策定時の南砺市の状況や数値を順調に伸ばす前提でここまでいけないかと協議した上で数値を決めている。
- 点検評価委員 目標値をクリアすることで子どもたちの達成感になり自己有用感にもつながる。最終的な目標は100%を持っていくことかとも思ったが、おおよそそこくらいという目標もそれはそれで良いかと思う。

基本施策（3）健やかな体の育成

- 点検評価委員 各学校によって給食費に違いが出ないように差額分を市が負担するところが大変良い取り組みである。センター給食は経済面では楽だが冷めた状態で食べることになる。南砺市の取り組みは素晴らしい、A評価でも良いと感じる。
- スポーツエキスパートの派遣については記載があるが、今後文化系にも力を入れてほしい。吹奏楽は楽器ごとにエキスパートを呼ぶ等お金がかかる。
- 点検評価委員 少子化に伴い、各学校の部員も減少している。少ない部員に対してどのようにエキスパートを派遣するか考えなければならない。
- 事務局 抱点校という形で吹奏楽に力を入れる学校を決め、特認校制度を利用し生徒に集まってもらう。外部指導者については消防音楽隊のメンバーに協力いただくよう調整が進んでいる。美術・芸術分野についても文化協会等と話を進めているところである。

基本施策（4）学校教育を支える環境の整備

- 点検評価委員 チーム担任制が大変評価されているが、それはどのような体制なのか。
- 事務局 従来、一人の先生が一クラスの担任として子どもたちを見ていたが、チーム担任制では2、3人の先生で複数のクラスの子どもたちを見ることになる。二つのクラスを同時に、それぞれの先生の得意な分野で授業をする。例えば、ベテラン

の先生が授業をして、若手の先生がその授業を見て学ぶというものである。

○点検評価委員　自分のよく知ったものだと、担任の先生がいて基本的にその先生が一人で一クラスを仕切っていた。しかし今は一人で見るのではなく副担任等複数の目で見るということか。その体制は生徒側も理解しているのか。

○事務局　生徒も理解している。同一学年で二クラス一緒に授業を行うケースや、小規模校だと学年をまたいで一緒に授業を行うこともある。副担任というわけではなく、それぞれに主担当がいるという体制である。

○点検評価委員　それは生徒数が増えても可能か。

○事務局　仕組み上は可能だが、児童生徒数が極端に多いとメリットが薄れてしまうため、小規模校のほうがメリットを活かせる仕組みである。

○点検評価委員　今後、学校再編が進む中で大変良い体制だと感じる。教師一人ですべて判断するのはやはり負担が大きいと思うので今後もチーム担任制を継続してほしい。

○点検評価委員　学校に見学に行くと、一学年で一クラスほどの人数しかいない。主になって動く先生が一人いれば、他の先生が一緒に見ているので手助けすることもできるし、その科目の得意な教員に教えられた方が児童生徒も楽しく授業を受けられる。複数の目で子どもたちを見ることで、子どもたちの様々な側面が見え、小規模校では学年を超えて関係性を築けている。

○事務局　先生同士もどうしたら教育を楽しんでできるかを考えている学校を作れたら良いという思いで進めている。

○点検評価委員　児童生徒たちも得意な先生と不得意な先生がいると思うので、チーム担任制という制度を子どもたちも理解していれば、悩みがあっても相談しやすく、教員にとっても児童生徒にとっても良いことだと感じる。

○点検評価委員　特認校制度について、いじめ問題対策連絡会議で年度途中で学校を変わってもよいのかという意見があった。

○事務局　生徒指導上必要と認めた場合は教育委員会が特認校制度とは別に許可を出すことになっている。ただし、原則としては入学のタイミングでの申請を受け入れている。

○点検評価委員　別の学校で部活動に参加したいため特認校制度を利用したり、学区内の学校に通いながら部活動のみ別の学校で参加したりするという例もある。別の学校に行きたいが親の送迎が難しいという声もよく聞こえる。学校間を行き来するバスなど子どもだけでも移動できる手段ができないか。

- 事務 局 バスがあれば一番良いが、部活動の地域移行を開始するときに、バスを出すのは難しいという判断になった。なぜ特認校制度と拠点校型の部活動を作ったかというと各家庭の経済状況にかかわらず、すべての子どもが希望の学校に行けるようしようと考えたためである。経済的にゆとりのある家庭だけ地域型の部活動に参加できるという仕組みではいけないと考え、拠点校に転校するという形をとることで通学費を市が全額負担できるようにした。すべての子どもに平等にチャンスが与えられるようにこのような拠点校型の制度を取り入れた。小学校は部活動は関係ないが、小中学校ともに特色ある教育課程をとっているため、行きたい学校に行けるように特認校制度を採用している。
- 点検評価委員 いおう教室に通っている子どもたちは自力で通うか保護者の送迎かだと思うが、今後スクールバスの運行は考えているのか。
- 事務 局 現在検討しているところである。しかし、いおう教室を認めるとすべてのフリースクールにもスクールバスを認めなくてはならなくなる。

基本目標「2 生きがいある暮らしのための生涯学習の推進」

基本施策（1）生涯学習活動の推進

- 点検評価委員 図書館の取り組みについて、井波図書館では一度イベントに参加した人はその後も定期的に参加しているが、市民に広く知れ渡っていないのではないかと感じている。PRはどのように行っているのか。
- 事務 局 中央図書館でもリピーターは何名かいらっしゃるが、新規の利用者が少ない状況である。毎月、広報とホームページで案内を出しているが、中央図書館では9月に各学校の図書室宛におはなし会の年間スケジュールが記載されたポスターの掲示を依頼した。来年度からは年度当初に学校、保育園、子育て支援センターに同様のポスターを配布し、市内全図書館分の内容を含めて周知を行う予定である。

基本施策（2）青少年健全育成活動への支援

- 点検評価委員 街頭巡回指導回数、青少年育成講演会開催回数の目標値について、年間計画の中で目標値を決めたが実際の実施回数は少なかったのか。最初に決めてしまえば達成できそうだとも考えられるがどのように実施したのか。

- 事務局 市内に8支部あり、各支部で実施されたことを取りまとめているが、何回開催するように市から依頼することはない。
- 点検評価委員 青少年育成講演会開催回数は8支部中半分の実施が目標値ということか。これまでの推移をみていると2回のことが多いが、今後目標値を下げるのか、どうするのが良いか疑問に思った。
- 親学び講座について、昔からあるが開催はされているのか。城端ではやっていたが途中からなくなったようだ。講師がなかなか見つからなくなっていること、誰でも講師ができるわけではないことが原因の一つではないかと考えている。子どもの教育を行う上で、親も教育されるべきだと実感しており、今とは違う形でも親が学べるような講座を開催していただきたい。
- 点検評価委員 青少年育成講演会を井波地域で実施していることを知っているが、あと一回はどこで行っているのか。他の地域でも行いたいと言えば実施できるものなのか。
- 事務局 あと一回は全体で行っている。各支部で毎年大体同じような取り組みとなっているが、青少年育成講演会を行いたいと言われた場合は対応できる。

基本目標「3 健やかな心と体を育む生涯スポーツの推進」

基本施策（1）市民スポーツの推進

- 点検評価委員 B評価となっているが、説明にあったように指標の条件が令和6年度から厳しくなったことを鑑み、「スポーツを行っている市民の割合は目標値から遠ざかっている」のではなく、数値は下がっているが遠ざかってはいないというニュアンスにした方がB評価らしいと思う。今のままだとCともとれる。一年間継続はしていなくともスポーツを行っている市民はいることを強調してはどうか。

基本施策（2）競技スポーツの振興

- 点検評価委員 国民スポーツ大会の目標値が18%、実績値が12.3%となっており、実績値でも十分良い数値だと思われるが、目標値が高すぎるのでないか。
- 事務局 今後、検討する。

基本目標「4 子どもが健やかに育つ環境の充実」

基本施策（1）未来をひらく子育ち支援

○点検評価委員 人権擁護委員会でも昨年、小中学校や保育園に人形劇を行くなどの活動実績があり、ノウハウもあるため、交流・連携していくともう一段階上の段階を目指せるかと思う。

基本施策（2）子育てを担う家庭への支援

○点検評価委員 ③について、60ページに「教材案を作成し、模擬授業を実施する」とあるが誰が授業をするのか。

○事務局 学校の先生に授業をしていただく。富山国際大学の教授に模擬授業として教材を作成していただき、それをもとに授業をしてもらう。

○事務局 指導案を使いやすい形に修正しながら勉強の仕方をその場で学ぶものである。

基本施策（3）地域や企業における子どもと家庭への支援

○点検評価委員 なんと！やさしい子育て応援企業の認定社数が増加したと記載があるが、どういった企業が認定されているのか。企業の規模は関係ないのか。リクルーティングに活用したりHPに載せて発信できたりすると思う。

○事務局 市内の事業所で、従業員の子育て支援にどこまで配慮しているかが計数化され、基準を満たせば認定される。

基本施策（4）配慮が必要な子どもと家庭への支援

○点検評価委員 こどもの居場所づくりの支援事業が新しくなったが、フリースクールとして申請すれば、学校の出席と同じ扱いになるという認識でよかったです。

○事務局 学校と教育委員会とで教育課程を確認し、認定している。家の中にいるばかりではなく、外に出るという大きな一歩につなげたいと考えている。砺波地区でフリースクールの説明会を開催しており、未確定事項だが、来年からは保育園に登園できない子どもたちの保護者も参加し、連携を取れるように調整している。

○点検評価委員 市のこども課の施策は大変進んでおり、他の地域からも評価が高いと感じている。今後も良い方向に進めていってほしい。

基本目標「5 魅力ある文化芸術活動の振興」

基本施策（1）文化芸術創造プランの推進

○点検評価委員 南砺市は様々な芸術に携わっている人口が多く、プロの作家や職人の活動を市民全体にさらに広めていく取り組みを期待している。

利賀の舞台芸術は美術、芸術、音楽とすべての要素を含んだ総合芸術であり、日本全国、国際的にも注目を浴びている。特に今年は50周年ということもあり、メディアにも取り上げられているので、活動の継続、さらなる飛躍につなげていってほしい。

スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドも地元の人が積極的に参加しているイベントであり、音楽を通して地元を元気にする取り組みが継続的に行われており大変評価が高く、次への展開を楽しみにしている。

基本施策（2）文化芸術活動への支援

○点検評価委員 美術展について、参加者、出品者ともにプラス傾向になっている。どの地域も少子高齢化に伴い減少傾向になっている現状だが、南砺市は良い方向に動いていると感じる。先ほど部活動に関する話題があったが、スポーツ分野や文化の中でも吹奏楽は割と注目を浴びているが美術分野は個人的な活動が多いこともあり、取り上げられることが少ないようを感じる。指導者になり得る芸術家、作家が南砺市には多いので、そういった人材を巻き込んで団体でもできる芸術の企画を考えてみてはどうか。

基本施策（3）文化ホール・美術館等の事業の充実

○点検評価委員 A評価がついた文化ホール・美術館等の施設は大変面白くなってきたと感じる。実際に行ってみたいと感じる新しい催しが多い。

基本目標「6 文化財の保存・活用と伝統文化の継承」

基本施策（1）世界遺産マスタープランの推進

○点検評価委員 茅の自給率の向上について、高齢化の影響を受けていると感じる。ボランティア活動で人手を集める手があるのでないか。実際、茅の生産量を増やすことが最も大変なのか。

○事務局 人手不足が課題だが、企業を含め、ボランティアを募ってご協力いただいている状況である。今後もボランティアの方々にご協力いただきながら自給率アップにつなげたい。

基本施策（2）文化財展示・収蔵施設の期の充実

- 点検評価委員 南砺市にはたくさんの文化財があり、それを多くの人に知ってもらうための情報発信をしていけたらよい。埋蔵文化財センターや城端曳山会館など、入館のきっかけが少ない印象だが入ってみると長い歴史・文化に触れられるため、アピール活動を行い魅力を発信していってほしい。
- 点検評価委員 一番の問題はC評価の部分である。実際行ってみたら面白かったという意見も聞いたことがあるが、どのように周知活動を行えば効果的か考える必要がある。

午後0時00分、議事が終了したので教育部長が閉会を宣した。

令和7年9月12日

南砺市教育委員会

教育長